

「答えのない課題の解決に挑む学び」を支える 教育システム・デザイン

山崎 治

(学会誌編集委員会特集号担当幹事)

瀬田 和久

(学会誌編集委員会委員長)

『「答えのない課題の解決に挑む学び」を支える教育システム・デザイン』は、2024年4月に発刊する学会誌特集号論文のテーマとして、2022年8月の全国大会企画セッション、2023年3月の特集号研究会⁽¹⁾で議論の場を設けてきた。この特集号論文の投稿メ切は2023年6月1日となっている。

テーマ設定の趣旨を特集号研究会のCFP⁽¹⁾から引用する。「現代は、先行きが見通せない予測困難な時代、また持続可能な未来のために劇的な社会変革が求められる時代でもあります。従来からの価値のみに縛られず、新たな課題の発見・解決を通じた『価値創造』に対応できる人材の重要性が増してきています。それとともに、価値観が多様化し、複雑さを増す現代という時代において、一人ひとりが自身および他者の良さや可能性を認めつつ、協働的に社会の課題へ取り組む必要性も謳われています。このような時代・社会からの要請に対して、『答えのない課題解決に挑む』人材をどのように育成していくのか、はわれわれにとって喫緊の課題の一つといえます。そこで、答えのない課題解決に挑む学びを促進し、支援するため教育システム・デザインの提案・実践や、それらの取り組みを加速するための教育DXに寄与する先行的な取り組みに注目します。」

「答えのない課題の解決に挑む学び」というテーマの重要性は言わずもがなである一方で、そのテーマに示された学習対象およびアプローチは多様かつ混沌としているともいえる。そのため、特集号テーマ『「答えのない課題の解決に挑む学び」を支える教育システム・デザイン』の括りの中においても、ある体系に基づいた系統的な論文執筆が難しいことも想定される。また、そのような学習対象やアプローチであるが故、リサーチクエスションの解決・達成を直接示すような

評価が必ずしも可能でないことも、企画セッションや特集号研究会の議論を踏まえてわかってきた。

このようなことから、特集論文の投稿メ切に先立ち、次ページからの解説記事の執筆を柏原昭博先生に依頼した。これまでは慣例として、特集論文の掲載と同じ号に当該テーマの解説記事を掲載していたが、本解説論文により、研究内容の整理や論文執筆において参考となる視点を先んじて示していただくこととした。

柏原昭博

『Web 調べ学習支援のデザイン』

本解説論文で、柏原先生には、Web 調べ学習支援環境のデザインを題材に、学習者自らが解を見いだそうとする主体的な姿勢を支えるための方法論について解説をいただいた。ゴールが定義された従来の学習対象では「教育的な観点」からの方法・評価が軸となる一方、答えのない課題に挑む学びを支えるためには、学習者の学びのプロセスやその内容を学習者の観点から眺めることの重要性をご指摘いただいた。また、解説論文の最後では「今後、正解が想定できないことを恐れず、学習者の主体性を助長しながら有用で適切な学習支援を作り出す研究が数多く出てくることを期待したい」とのエンカレッジのお言葉もいただいている。

「答えのない課題の解決に挑む学び」というシンプルではあるものの難解なテーマに挑み、特集号へのご投稿をお考えの方には、本解説論文から、ご研究を学術論文としてまとめるときの手掛かり・ヒントを得ていただきたいと考えている。また、本特集号の査読にご協力をお願いすることになる方には、研究対象の難